



島教協

《 すべては「子どもたちのために」 》
情 報http://
www.kyougikai.orgE-mail
office@kyougikai.org

〒693-0011 出雲市大津町2214 Tel/Fax:0853(22)7762 代表者 吉田 修 編集人 勝部功人

No.646

島教協 平成24年度 役員選挙 告示

島根県教職員協議会規約第4章第17条に基づく役員選挙規定に従って、平成24年度役員選挙に関し、下記のとおり告示します。(選挙管理委員長)

<input type="checkbox"/> 島教協役員選挙告示	3月23日(金)	<p>■ 選挙により選出される役員は、次の通りとする。 (規約第15条に基づく)</p> <p>会長(1名)、 副会長(若干名) 事務局長(1名)、 事務局次長(若干名) 執行委員(若干名)、 監査委員(2名)</p>
<input type="checkbox"/> 立候補届け出締切	4月2日(月)	
<input type="checkbox"/> 公示	4月2日(月)	
<input type="checkbox"/> 投票	4月19日(木)	
<input type="checkbox"/> 開票	4月20日(金)	

- 立候補する会員は立候補届に、立候補者を推薦しようとするときは、所定の用紙に定められた事項を記入し、立候補届締切日までに選挙管理委員会(事務局)に提出下さい。
(用紙は事務局内にあります。)
- なお、立候補者がその役員の定数を超えないときには、信任投票を行います。
選挙管理委員会は、事務局内に設置します。(役員選挙規定に基づく)

公務員定年延長問題 その2

前号でも述べたが、『再任用制度』を教育専門職である私たち教職員に一般行政職と同じように導入すると様々な問題が生じると予想される。

アンケート結果では、「60歳で教職を終えたい」に次いで、「60歳を過ぎてからは短時間勤務をしたい」との回答(前顔掲載)が多かった。退職者の多くは再任用短時間勤務を希望すると思われる。そうなった場合の問題点として、下記のようなことが予想される。また、アンケートの記述回答(裏面掲載)では、自身が60歳を超えてからのこととともに、若い世代のことや学校の活力、教育を受ける子どもたちについて心配する声が多く寄せられた。県教委交渉や人事委員会申し入れでは、教育現場の実情とアンケートから得られた教職員の声を伝え、教職員がやりがいを持って働くことのできる環境の整備が図られるよう要望した。『再任用制度』が導入される場合、制度設計の段階で教育現場の声を十分取り入れるよう、これからも県に強く訴えていく。

再任用制度を導入した場合に考えられる問題点

- ・定年退職者を再任用する場合、再任用希望者全員を採用できるのか。
- ・新規採用者や現在講師をしている教員へのしわ寄せが生じないか。
- ・60歳以降の教員の異動ルールはどうなるのか。
- ・短時間勤務を導入するのか。その場合、教員定数にどのように反映させるのか。
- ・短時間勤務者を教員定数に1/2とか2/3にして取り入れた場合、60歳までの教職員の負担はどうなるのか。(主任、担任、課外活動顧問など)
- ・学校の活力を維持・増進できるのか。
- ・元管理職は、どのような勤務を行うのか。

裏面に続く

公務員定年延長問題 その2 続き (会員の声)

島教協会員アンケートより [H23.9月実施 有効回答178名]

(年代性別・校種)

定年延長が実施された場合、取り入れてほしいことは何ですか。	
ア. 短時間勤務が選択できること。	67%
イ. 61歳以降は、異動ルール(同一校7年、同一市町村15年まで)を適用しないこと。	59%
ウ. 61歳以降の遠隔地勤務がないこと。	65%
エ. 年退職者不在の年も、他の年と同規模の新規採用を行うこと。	44%
オ. 早期希望退職者の退職金加算制度を継続すること。	55%

- ・60歳以降の者にも、等しく研修する機会を与えてほしい。(40代女性・小学校)
- ・新規採用は、しっかりしてほしい。(40代男性・小学校、40代女性・小学校)
- ・体力的な限界がある。責任を負う立場ではなく、補助者の形で関わりたい。(40代女性・養護教諭)
- ・職務内容の選択ができること。60歳以上で担任をするより、専門性を生かした校務ができるとよい。(40代女性・小学校)

定年延長が実施された場合、学校現場にはどのような問題が生じると考えますか。	
ア. 短時間勤務希望者が多いと、60歳以下の教員の負担が増える。	74%
イ. 管理職定年の教員がいるとやりにくい。	25%
ウ. 私傷病者が増加する。	22%
エ. 早期希望退職者が増加する。	24%

- ・教職員の高齢化が心配である。(50代男性・中)
- ・年齢のせいにして仕事を軽くするよう希望する人が出てくると本当に困る。(50代女性・小)
- ・生徒観や教育手法が古いままの人が増え、現実の教育問題に対応できにくくなる。(30代女性・中)
- ・体力、情熱の減退した教員が漫然と勤務していることで、学校全体の活力が低下する。(30代女性・中、40代女性・小、50代男性・小)
- ・40代の働き盛りの人が、主任として活躍できにくくなる。(40代女性・小)
- ・小規模校での短時間勤務は、校務分掌のバランスが崩れるので難しくなる。(50代男性・中)
- ・学校の職員数(定数)を増やさなければ、60歳以下の教員の負担が増える。(40代男性・小)
- ・教職員の定数について、短時間勤務の職員を2/3とか1/2で計算するのか。勤務時間をそのまま計算して定数に入れると中堅層や若年層にしわ寄せがいく。(40代男性・小)
- ・短時間勤務者が少なくても、若い人の負担が増える。(40代女性・小)
- ・若年層、中堅層の人が少なくなり、その年代の負担が大きくなる。延長するなら定数を増やすぐらいの措置を講じるべき。現状ではそれは難しいので延長する必要性を感じない。(50代男性・小)
- ・短時間勤務になると担任を持てなくなる。放課後に打合せなどできない。職員会議は？(50代女性・小)
- ・サポーターさんや学習支援員さんと仕事内容をどう分けるのか、仕事内容や他の職員との分担が難しい。(50代女性・小)
- ・若い人材の育成ができにくくなるのではないか。(40代女性・小)
- ・若い職員が働きづらい。(40代女性・小)
- ・若い職員が減る。新規採用が減り、若い人の就労機会を奪ってしまうのではないか。(30代女性・中、40代男性・小、40代女性・中)
- ・60歳を過ぎて今のような勤務内容では、やっていけない。(30代女性・小、40代女性・小、50代女性・小)
- ・新しいやり方についていけない。疲れ切って、元気な子どもに良い教育ができない。(50代女性・小)
- ・60を過ぎての水泳指導はできない。体育や課外活動の指導も体力的に厳しい。子ども達もかわいそう。(40代女性・小、50代女性・小)
- ・管理職が教諭の仕事に戻ると、現場の他の教員は精神的に耐えられない。(50代男性・中)
- ・授業をしなかった期間が長い元管理職の人が普通に授業をするのは大変なことだと思う。(50代男性・中)